

赤潮・貧酸素情報（14）

平成 26 年 8 月 5 日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

8 月 5 日に豊前海区沖合における調査を実施した結果、宇島港入口付近に有害プランクトンのカレニア・ミキモトイの赤潮の形成が確認されました。

<カレニア・ミキモトイの状況>

- 宇島港入口付近では表層 1 ml 中に 2,000 細胞のカレニア・ミキモトイの赤潮が形成され、着色も確認されました。
- そのほか、調査した全地点でカレニア・ミキモトイが確認されています。
- カレニア・ミキモトイは、数千～1 万細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- 本種は、増殖初期は中層（主に 5 m 層前後）で増殖する性質を持っていますので、通常、海面からの観察では海水の着色が判別しにくい種類です。
- 8 / 4 時点では調査した全ての漁港内でカレニア・ミキモトイが確認されています。漁港内での畜養は避け、出荷する際には早めの出荷をお願いします。

<貧酸素の状況>

- 調査した海域において酸素濃度 30% 以下の海域は確認されませんでした。
- ただし、8 / 4 時点の調査では稲童漁港内で酸素濃度 49% が確認されていますので、今後の情報にご注意ください。

※酸素濃度（DO(%)）は、およそ 30% 以下で魚介類に影響を及ぼし、10% 以下でへい死する恐れがあります。

<今後の状況>

- 今後も、天候次第ではさらにプランクトンが増殖する可能性や海水の酸素濃度が低下する可能性がありますので、着色が認められていない港でも十分注意してください。
- 研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報に十分ご注意下さい。
※今後、漁業被害、海面着色などがみられましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：俵積田、大形）までご連絡下さい。

表 8月5日調査結果

番号	採水場所	採水層 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	カニア・ミキトイ (細胞数/海水1ml)	酸素濃度 (DO(%))
①	柄杓田いかだ	5	26.3	31.35	3	90.2
②	人工島	5	26.9	30.71	730	90.2
③	蓑島いかだ	5	26.7	30.94	18	94.8
④	稲童沖	5	26.6	30.98	105	102.9
⑤	椎田いかだ	5	26.7	30.87	265	87.4
⑥	宇島港入口	0	27.6	30.52	2,000	113.9
⑦	北部沖	5	26.8	30.91	9	114.2
⑧	南部沖	5	26.5	31.14	820	125.0
⑨	シーバース	5	26.0	31.61	18	126.3

*** 最高細胞密度が確認された水深について表示**

図 8月5日調査点図

